

長い間、地元の人によって山の木は炭や薪に、谷戸は田んぼや畑として利用されてきましたが、昭和40年代以降社会の変化と共に使われなくなりました。

昭和30年代までのこのような所にはたくさんの生き物が生息し、生物多様性に富んだところでした。

人の手が入らなくなってやや少なくなったのですが、それでもいまでは珍しくなった貴重な生き物がいろいろいます。

2015年、神奈川県自然保護協会が選ぶ県内生物多様性ホットスポットとして選定されました。

あつぎこどもの森公園憲章

私たち厚木市民は、「あつぎこどもの森公園」において、多くの生き物に恵まれた自然環境や里山の文化などの資源を守り、いかしながら、遊んで学んで元気になれる自然体験活動を通じてたくましい子どもたちを育てる取組を推進するため、この憲章を定めます。

- ・ 私たちは、厚木市の生き物にとって重要な場所である「あつぎこどもの森公園」の自然環境を守り、育て、その大切さを伝えます。
- ・ 私たちは、里山の自然環境の特性をいかした様々な体験の機会を子どもたちに提供し、生きる力を育みます。
- ・ 私たちは、里山で継承されてきた農業や暮らしの知恵を伝承し、新たな里山の文化を育てます。

制作 ©あつぎこどもの森クラブ自然プロジェクトグループ 通巻62号

写真 吉田文雄・野中俊吾・青砥航次

連絡先 あつぎこどもの森公園管理棟 046-210-3433

E-mail atugikodomonomorikurabu@gmail.com

HP: <https://atsugikodomonomori.com/>

種子の旅

2021年11月20日(土)



テイカカズラ：細長い鞘が捻じれるようにはじけると大きな綿毛をつけた種が飛び出す。

主催 あつぎこどもの森クラブ

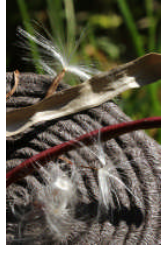
旅する種子

生物にとって大事なことは子孫を残すことです。そのために様々な手段を取ります。動物のように移動できない植物は大変です。

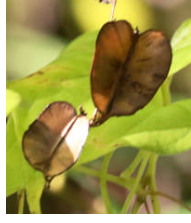
風に任せる



イタヤカエデ



テイカカズラ



オニドコロ

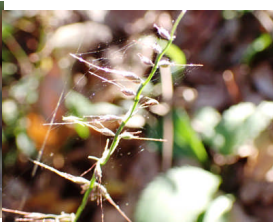


ススキ

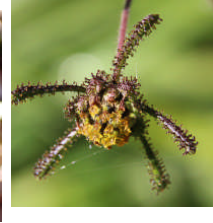
くっついて運ばれる (ねばる)



ノブキ



チヂミザサ



コメナモミ

はじけて飛ぶ

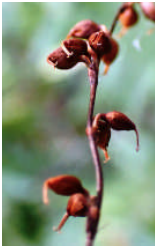


オッタチカタバミ



ゲンノショウコ

くっついて運ばれる (ひっかる)



ミズヒキ



コセンダングサ



オオオナモミ



アラカシ



ムラサキシキブ



シロダモ



ウド

最近のこどもの森公園

キノコ



ウスキモリノカサ



ヒトヨタケ



シイタケ

植物



サンカクツル紅葉

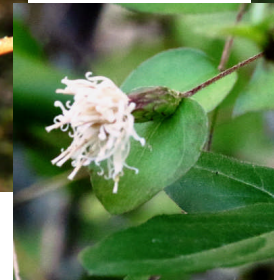
蘚苔類



ツチノウエノコゴケ



オオバヤシャブシ



コウヤボウキ

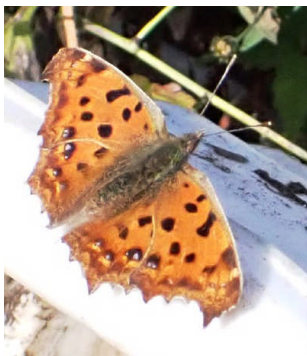


シロダモ

蝶 蛾



ヒメクロホウジャク



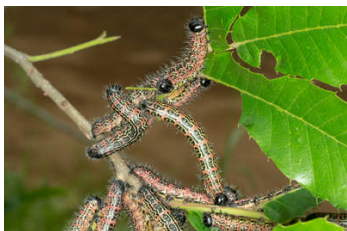
キタテハ



キタキチョウ



オオトビモンシャチホコ
左は成虫 下は5月にコナラの葉についた幼虫



トンボ類



オオアオイトトンボ

バッタ類



トゲナナフシ



セスジツユムシ

センサーカメラがとらえた画像

今回もシカが多く写りました。



角に蔓をひっかけて取れなくなったようです。よく見ると立派な角は泥だらけ。どうやって外そうか、苦労しているようです。 10/19

角いろいろ 角があるのはオスだけです。2年目から生え始め毎年生え変わりながら立派になっていきます。



活動の記録

こどもの森フェスティバル 11月3日

【水辺の生き物展】

11月2日、3日の両日
管理棟で行いました。

こどもの森内で生息するもの
だけではなく市内の河川にいる
魚類も展示され人気でした。



このほか、自然プロジェクトでは草木染体験教室
と染色液につけている間のミニ観察会、すすきの穂
を使ったフクロウづくり、ネイチャーガイドとどん
ぐり拾い、生き物調べコーナーを担当しました。ど
んぐり拾いでは最後に拾ったどんぐりを植樹用の苗
を作るため種まき箱に並べました。

生き物調べコーナーでは、こどもの森探検隊の農
大生の皆さんが大活躍でした。



生き物調べコーナー

クヌギ広場の草原

広々とした草原が気持ち良いクヌギ広場には、
様々なバッタの仲間などの昆虫が生息して
います。近頃ゴルフ場を除いて草原環境は
とても少なくなっています。そのため草原に
住む昆虫にとってもここは大事な場所です。



ここでは多くの昆虫が住めるように、草の刈り方を工夫して2段階の高さにする
よう、業者の方をお願いしています。



オギ原の草刈り 11月13日

オギやヨシの茂る場所は多くの生き物にとっ
ても大事な生息場所です。しかし放置すると木
が生えるなど環境は変化していきます。同じ状
態に保つためには刈り取ることで毎年新しい芽
が出て伸びるようにすることが大事です。

というわけで草刈りをしました、オギの間にはカヤネズミの古巣が7個ありま
した。写真のカヤネズミの巣が置いてあるところはどんぐりの蒔き床です。

ガイドウオークはコロナの蔓延期間中定員20名にしています。原則事前申し
込み制で、定員に空きがある場合は当日参加もできます。会員に限らず誰でも
申し込みます。

こどもの森ガイドウオーク（自然観察）原則第3土曜日

13:00 ~ 管理棟集合 参加無料どなたでも参加できます。定員20名
2021年の計画

- 4月17日 雑木林の春
- 5月15日 夏鳥の声
- 6月19日 初夏の植物
- 7月17日 森の昆虫を探そう
- 8月14日 水辺の生き物
- 9月18日 谷戸のシダとコケ
- 10月16日 秋の花とキノコ

- 11月20日 種子の旅
- 12月18日 生き物の冬越し
- 2022年 ↑ 次回
- 1月15日 冬の野鳥
- 2月26日 冬芽の観察
- 3月19日 春の兆し

水辺の生き物調査隊（申し込み制 年間メンバー固定）

- 4月11日 こどもの森公園と水生生物について
- 5月16日 両生類〜カエル・イモリについて
- 6月20日 ホタルについて
- 7月19日 水生カメムシについて
- 8月1日 トンボについて
- 9月5日 河川調査について
- 10月3日 外来生物について
- 11月7日 ホトケドジョウについて
- 12月4日 冬の生き物の過ごし方 ← 次回
- 1月10日 落ち葉かき・カブトムシ増やし
- 2月6日 トンボの幼虫を絵に描こう
- 3月6日 ヤマアカガエルについて

新型コロナウイルス
により中止の
場合があります。

植物モニタリング

原則毎月第2金曜日の9:30から 決まったコースを歩いて出現する植物を
記録します。植物を覚えたい方により機会です。会員対象

草木染め勉強会

園内にある植物を使って草木染めをいろいろ試してみようという会です。
毎月第3金曜日午前中に行っています。
会員対象です。（入会はいつでも受付けています）